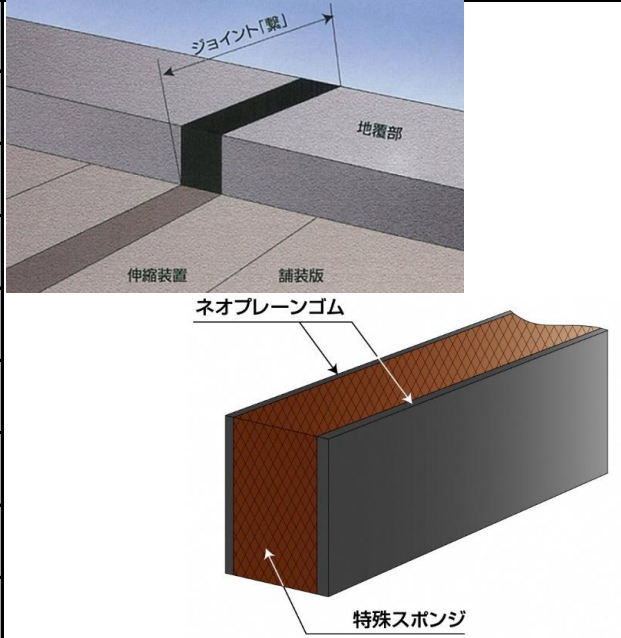


新技術・新工法

登録番号	19034	
新技術名	ジョイント「繫」	
副題	橋梁地覆隙間部の雨水などの止水構造	
従来技術名	シーリング材	
活用区分	—	
新技術等の区分	製品	
新技術等の分野	工程、品質・出来形、経済性、施工性、耐久性	
NETIS番号	QS-180020-A	
問い合わせ先	山王株式会社 096-214-6850	

概要	<p>①何について何をやる技術つなのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・橋梁の地覆隙間部からの雨水などの侵入防止を目的とした隙間止水材である。従来工法の発泡材を押し込み表面にシーリングを行っていた作業を、隙間止水材を押し込み及び接着剤で注入作業とした。 <p>②従来はどのような技術で対応していたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来は、隙間部に発泡材等を押し込み、表面をシーリング材で覆う構造である。 <p>③公共工事のどこに適用できるか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・橋梁の地覆隙間部の止水材として適用する技術である。
特徴	<p>①従来工法の発泡材＋シーリング材からスポンジゴムとネオプレーンゴムの3層構造の止水材に変えた。</p> <p>②3層構造の止水材としたことで、復元性が高く既設コンクリートの追従性に優れる。</p> <p>③3層構造の止水材を接着剤で固定するのみであるため、施工効率が向上する。</p> <p>④スポンジ及びゴムが紫外線劣化に強く耐久性に優れる。</p>
適用可能な箇所	<p>①自然条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施工時の外気温が5℃以上 ・雨天時施工不可 <p>②現場条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施工面が乾燥していること。 ・作業スペースとして、1m×1m程度必要
施工単位等	<p>新技術 162,650円／10m当り</p> <hr/> <p>従来技術 193,420円／10m当り</p>